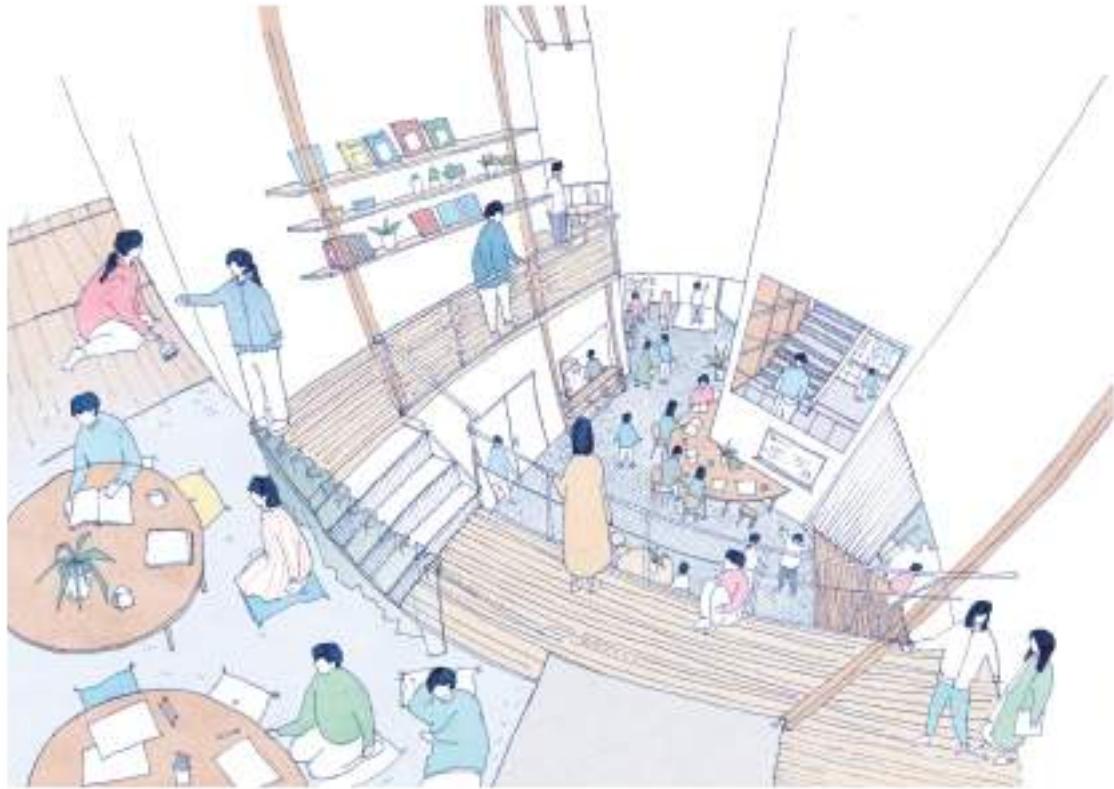


交錯する領域がひらく他者とのせかい、相向研究者の絶対領域から考える共生の空間づくり



研究背景...相向研究者のせかいは絶対的である



多くの研究者は複数役割を見てきて、実際調査者の領域は二重性であることに気づいた。例えば、共同研究者として体を駆動する人、隠さん、隠すと共に操作する人など。



空間の中でのふるまい方にそれまでのことがわから見られることがある。一人一人の重心軸のいい場所や距離感が異なることがある。それに加え、領域の変化も見出した。私たちは適度、その場に応じて距離を伸び縮みさせていく「空気を読む」というのが、施設でのふるまい。研究者はある私たるの操作者である私たるの操作から、隠すによる相対領域が変化していくことがわかった。

施設の認知は施設の属性性が少ない



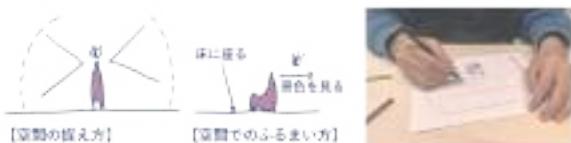
一方で、多くの実験施設は実験者は一定空間で一日を過ごすことを想定した。居場所の選択肢が少なくて、実験者が自分の好みによらずに見えていたように見える。

研究目的...両研究者の領域性から作る共生の空間



複数の両研究者と、空間内に若干個の複数位置があることを示す。隣接している。本研究の目的は、両研究者の持つ領域性から個人を立たせるような空間のあり方を探ること。

調査 / 分析...施設訪問から絶対領域について細解く



結果1 相向者自身に絶対的属性をもつ手足

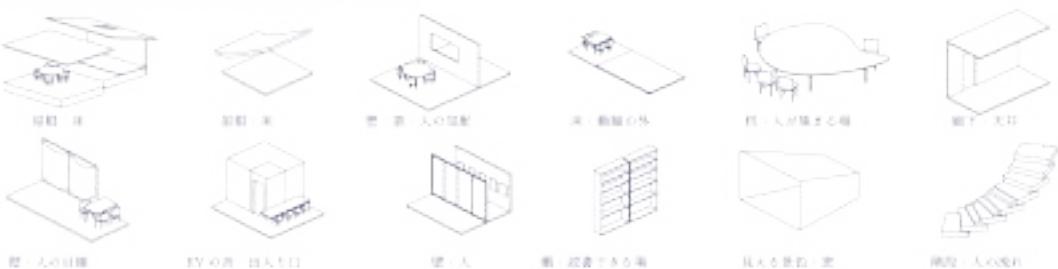
結果2 相向者自身にて相向者の上あるいは下で手足を記録する手足



分析1 それそれが描いたエレメントをプロットする



分析2 ふるまい / スケッチからその人の領域を空間化する



結果...絶対領域とはその人が注目するエレメントの集合である

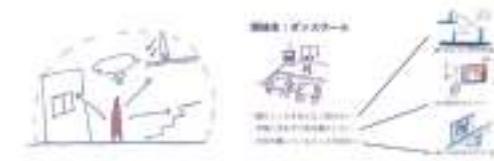


調査 / 分析...ヒアリングから、利害者の絶対領域はそれが目にするエレメントの集合として表せることが分かった。それに付ける理由には視覚的、身体的、健常的、若年性、対人、外見面接などの要素がそれぞれ存在することがわかった。この結果から、機械品目別施設の施設の区分において、各領域をヒアリングで描きうることの必要であると考えた。



この設計プロジェクトが立地や地域資源等の場所に依存せずに他の場所で同じことを実現するためには、図1:2段階別、場所別に想定し、場所別運用中の要素を整理して実現した。

設計手順 個人の絶対領域をエレメントに分解する



利用者が絶対領域小作件として「街の変化」などを「お腹に入れる場所で長時間過ごす相性がある」とことが挙げられる。これを利活用し、領域を逐段的に表現することを試みた。右図では調査結果を主と捉え、それそれに沿ってエレメントを抽出した。「調査」の作業は、一年間のため複数見学調査で集めた施設利用者や職員、保護者との会話調査に基づいて行った。



エレメントの重ね方

領域名③【ダンスホール】

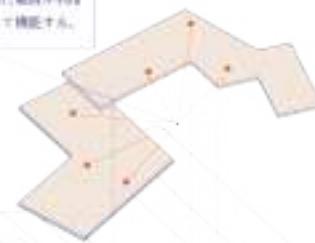


これは14人の調査を行ううえで、階段で踊っている人の領域から見えた空間である。この人に縁けてエレメントは階段をみんなに見える所抜け、自分で写オカ人間、西を出オカ人間の三つ。これらを他の領域のエレメントと絶対領域小作件を考慮しながら組み合わせ、相性を判断するレーンを設計した。

エレメント同士の相性を調整することで、複数の領域が干渉する領域は、囲りかこながる領域のバリケーションを生み出す。例えば、エレメント同士の距離が近い場合、領域の持つ主因子がより多くの領域を隣り可能条件が高まる。一方で、障壁が離れている場合、直接的な接続は希薄になるが、それそれの領域の範囲が広がり、周辺的なつながりが重要となる。



中心の吹き抜け
領域の抜けを確保することで、領域同士の連絡を代々傳やすと共に、領域が利用者を見守りやすい空間にして機能する。



周辺建築物に必要な面積
オフィスルームを中心に近い場所に配置することで、周囲の人たちが利用者を見守りやすくなる。



14種の領域を以て大きな一つの部屋のような様式を形成する。各絶対領域を階層や重心から放射状に配置するに同時に、大きな吹き抜けを設けることで領域の抜けを確保する。繋がった領域だけでなく、廊道を越えた領域との連絡を保つことができる。それに加えて、隣接ヒトが利用者を見守りやすくなる。

八割



4. 読書の場



7. 階段部屋



9. 部屋を開める部屋

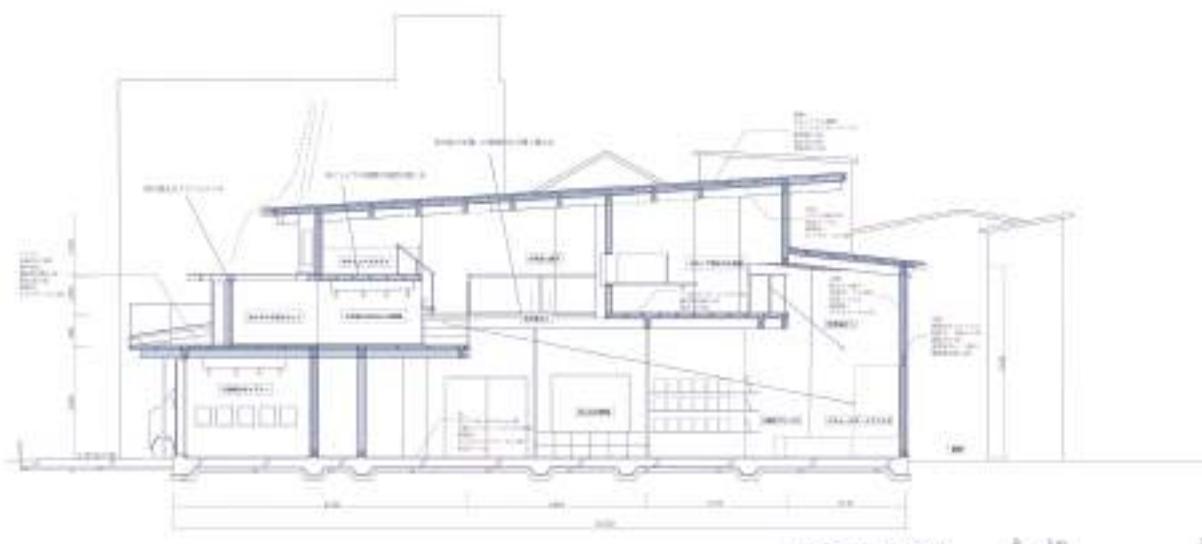
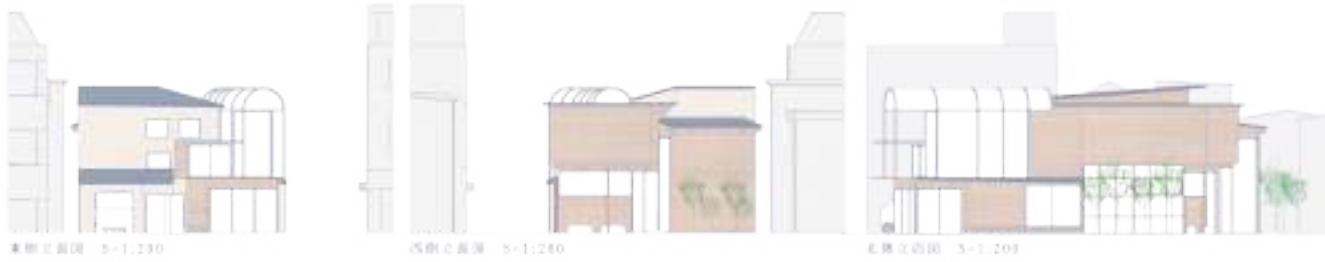
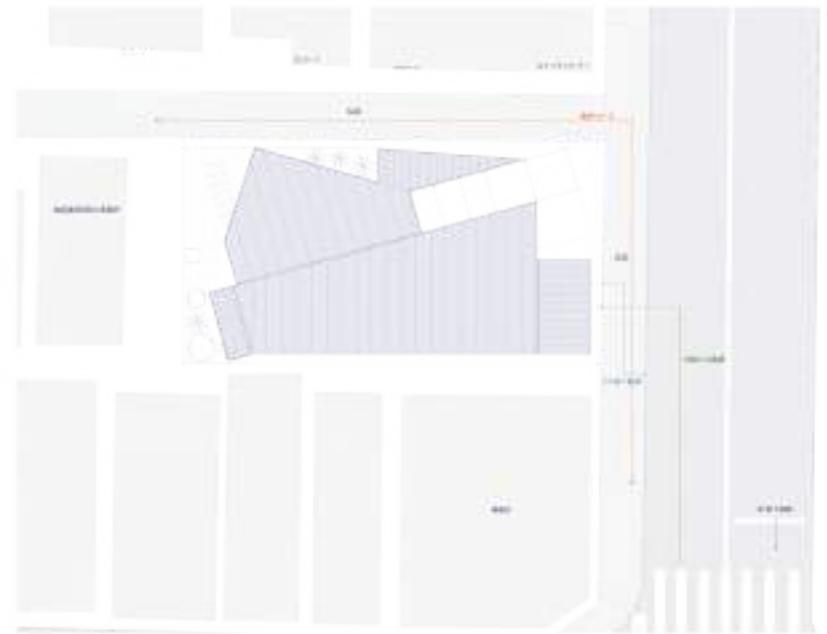


5. フォールアートアトリエ



13. 外を感じる部屋





南北の光射環境を大事にしながら場所を踏むことで、古来の話を読み空の部屋とは異なり自然な形で作れる。そして、1F棟の施設領域から作られた空間が同時により多くの利用者に開かれ、学びのある場を作り出す。